



森林 GIS フォーラム
平成 30 年度 地域シンポジウム in 北海道
～ ICT 技術を活用した北海道の森林管理 ～

開催日：10月9日(火) 11時00分～16時30分

場所：かでの27 1060,1070 研修室(〒060-0002 札幌市中央区北2西7)

<http://homepage.kaderu27.or.jp/>

主催：森林 GIS フォーラム (<http://fgis.jp/>)

森林 GIS をはじめとした ICT 関連技術は、特に UAV をはじめとして都道府県、市町村、森林組合における業務への活用が進んできています。今回の地域シンポジウムでは北海道における森林 GIS や UAV 等の IT 技術の活用や普及に向けた取り組み、研究成果等に関する講演を行います。

《プログラム》

■【賛助会員による森林 GIS のデモ】 11 時～16 時（かでの 27 1070 号室）

■【シンポジウム】 13 時 10 分～17 時 00 分（かでの 27 1060 号室）

●13:10 開会宣言

●13:10 会長あいさつ

●13:20 【講演】

濱坂 晃（石狩森林室）

「民有林における UAV(無人航空機ドローン) の活用事例について」

喜多 耕一（北海道総合政策部情報統計局情報政策課）

「胆振東部地震における山腹崩壊地のトレースと現地での利用について（仮）」

古家 直行（森林総合研究所北海道支所）

「マルチセンサによる天然林持続的管理に向けた森林モニタリング」

●15:20 — 休憩（賛助会員デモンストレーション） —

●15:40 【賛助会員企業等による話題提供】

●16:40 総合討論、話題提供など

●17:00 閉会あいさつ

■問合せ先：森林総合研究所 方 森林 GIS フォーラム事務局 高橋 正義

Tel：029(829)8314 E-mail：o_info@fgis.jp

北海道立総合研究機構林業試験場 菅野 正人

Tel:0126(63)4164(内線 345) E-mail：kanno-masato@hro.or.jp

平成 30 年度 地域シンポジウム in 北海道

～ 発表要旨 ～

【講演】

○濱坂 晃（石狩森林室）

「民有林における UAV(無人航空機ドローン) の活用事例について」

近年急速に発達・普及しているマルチロータータイプの UAV(ドローン) ですが、出始め当初はまだまだ業務に使えるレベルのものではありませんでした。そのころから、林業の現場で使えないものか試行錯誤を繰り返してきました。今では、性能や操作性が向上したことで広く活用されるようになり、林業現場でも徐々に使われるようになってきました。こうした今までの経歴と民有林での活用事例等について紹介します。

○喜多 耕一（北海道総合政策部情報統計局情報政策課）

「胆振東部地震における山腹崩壊地のトレースと現地での利用について（仮）」

平成 30 年 9 月 6 日に胆振地方東部で最大震度 7 の地震が発生し、人命、家屋等に大きな被害が発生した。震源地近くの厚真町厚真川流域では、大規模な山腹崩壊が発生し、広範囲に森林被害が発生した。9 月 7 日の夕方には、国土地理院から厚真川流域の空中写真を地理院地図で公開された。そこで災害対応に使えるようにするため、山腹崩壊範囲、土砂堆積範囲をトレースしてベクタデータ化してみた。QGIS で行うインターネットで公開された地図画像のトレース手法や、現地で使える地図ファイルの作り方などを紹介する。

○古家 直行（森林総合研究所北海道支所）

「マルチセンサによる天然林持続的管理に向けた森林モニタリング」

東京大学北海道演習林では、北海道中央部に約 2 万 ha の森林を保有・管理し、1958 年からは林分施業法の施業実験を継続し、地理空間データの活用による施業の効率化・高度化を進めている。対象とする森林は針葉樹と広葉樹が混交する天然林であり、従来多く研究対象とされてきた一斉人工林とは異なる取扱いが必要である。本研究では、Lidar による広域観測と UAV 観測を組み合わせた天然林の持続的な管理・モニタリング手法について報告する。